

しょかん

信長・秀吉・家康等の書翰がつぎつぎと 羽田八幡宮文庫で歴史上貴重な資料の存在を確認！

【はじめに】

豊橋市図書館では、羽田八幡宮文庫旧蔵資料（羽田八幡宮所蔵）のなかに織田信長、豊臣秀吉などの書翰と後奈良天皇などの宸翰の計8点の存在を確認し、筆跡や花押・朱印の形態などから、義詮、信長、秀吉、家康、光圀の書翰5点は本物であることが認定されました。なお、天皇の宸翰3点については、調査を継続しています。特に信長書翰は大坂石山本願寺攻め、秀吉のものは朝鮮出兵のなど、日本史上の出来事が書かれており、歴史上、大変貴重なものといえます。詳細は明日の説明会で発表します（裏面参照）。

【今回確認した資料】

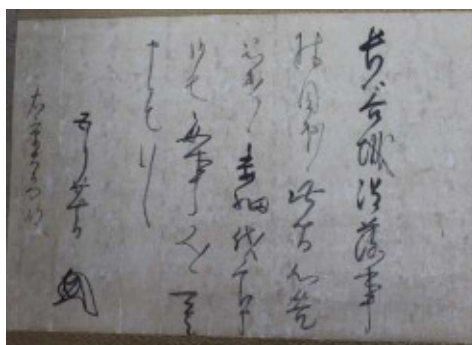
- ①右大将頼朝卿之書翰（足利義詮書翰）
- ②織田右大臣信長公御書翰「大和筒井順慶宛朱印状」
- ③豊臣太閤秀吉公御下知書「羽柴備前宰相他宛覚」
- ④徳川家康書翰「上杉景勝（推定）に遺れる書状」
- ⑤徳川光圀書翰
- ⑥後二条天皇宸翰・歌切
- ⑦後奈良天皇宸翰・二首懐紙
- ⑧後陽成天皇宸翰・花鳥風月



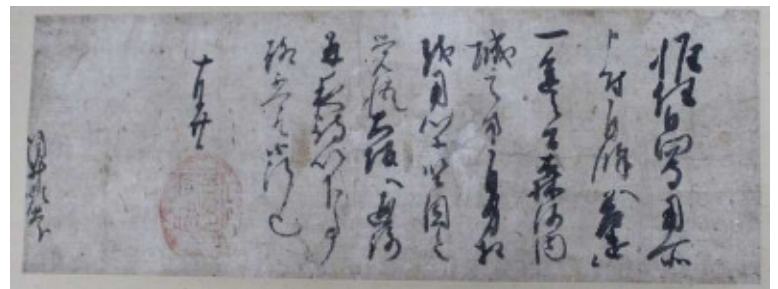
足利義詮花押(2)



織田信長印(3)
「天下布武」



足利義詮書翰



織田右大臣信長公御書翰

【資料の来歴】

これらの書翰と宸翰を羽田八幡宮文庫が所蔵していたのは、吉田藩家老の倉垣長頭が義詮と信長、秀吉の書翰、同じく家老の倉垣主鈴が家康の書翰、同じく家老の和田元長が後二条天皇・後陽成天皇の宸翰を文庫に奉納したからです。元は吉田藩のNo.2である家老が所有していたものであり、書籍と同じように文庫に奉納して末永く残したいという思いがあったようです。ただ、光圀の書翰と後奈良天皇の宸翰は来歴がわかりません。

【資料の評価】

- ①足利義詮、織田信長、豊臣秀吉等の書翰は、日本史上の重要な出来事が書かれており、貴重な資料といえます。
- ②足利義詮の書翰は御真筆である可能性があり、真筆とすれば数少ない資料になるものと思われます。また長谷城陥落の事は知られていない事実であり、今後の室町期の歴史研究に寄与するものと考えられます。
- ③信長が筒井順慶宛に出した朱印状は、石山本願寺攻めの時の家臣反乱に対する信長からの指令書であり、明智光秀の名前も出ているように、当時の織田方の対応を示す良好な資料といえます。
- ④秀吉の覚は、朝鮮出兵の際に宇喜多秀家、細川忠興、長谷川秀一の3戦国大名に出した覚であり、明国を攻める野望が書かれています。宇喜多家か長谷川家から流出した覚と推測されます。

今回確認した書翰・宸翰資料の大半は、吉田藩の家老家に伝わったものが羽田八幡宮文庫に奉納されたものです。江戸時代の私設文庫に武将書翰・天皇宸翰を所蔵している例は稀であり、羽田八幡宮文庫が庶民だけではなく吉田藩士からも信望されるなど、地域に根ざした文庫として特徴的で価値があると言えます。

明日開催！！

○報道機関対象説明会 ※全ての資料を展示、撮影できます

日時：令和元年11月6日（水）午前9時から

場所：豊橋市中央図書館 3階集会室（開館前につき裏口からお入りください）

内容：①資料確認の経緯及び資料の概説（市図書館）

②資料の解説（山田邦明：愛知大学文学部教授）

③質疑応答

④資料撮影タイム（※非公開資料につき、以後は撮影できません）

【問合せ先】文化・スポーツ部図書館 専門員 岩瀬彰利 ☎31-3131